

MUSIC CONNECTION

～彼女と家族とボクの空間～

空間って何だろう？

壁ってものをくっ付けて出来た隙間を空間って言うのかな？

じゃあ、彼女が求めている空間って何だろう。

お母さんが求めている空間って何だろう。

これは、家族思いの猫と自分の夢を叶えようと頑張る少女、

もっと家族のコミュニケーションをとりたいお母さんの

小さな、小さなお話。

「そんなことお母さんには関係ないでしょ！」

「親に向かってその口のききかたはなんなの！」

今日、日向ぼっこをしながらお昼寝をしていた僕は二人の怒鳴り声で目が覚めた。

これで何度目かわからない二人の喧嘩。

どちらも一步も引かないからいつまでも続く。

でも、少し前までは二人共仲がよかった。

一緒に料理を作ったり、買い物をしたり。

“何でこんなに喧嘩をするの？”

原因は知っている。

それはご主人様の見つけた夢の所為。

僕にはよくわからないけど、楽器を弾きながら歌っていつも練習している。

そのプロになるのが夢みたい。

でも、いつも部屋に籠って練習しているからママさんが怒る。

それで喧嘩が起きる。

二人の言い分は僕にもわかる。

ママさんはもっとコミュニケーションをとりただけだし、

ご主人様は夢を叶えただけ。

僕にもご主人様の歌が日に日に上手になっているのがわかる。

でも、ママさんはちゃんと歌を聞いたことがないから

ご主人様を頭ごなしに否定する。

ご主人様の歌をちゃんと聞いて欲しいな。

そうすればママさんはご主人様を認めてくれるかもしれない。

皆で仲良く暮らせる空間が生まれるかもしれない。

僕はそう思って近所の親分猫のトラさんに会いに行った。

トラさんと会った僕は今までの事を説明した。
ご主人様の夢のこと、ママさんのこと。

「僕はただママさんにご主人様を認めてもらいたいただけなのニャ」
「そうすれば皆が仲良く暮らせる暖かい空間が生まれると思ったわけだな」
「そうだニャ!!」

トラさんは僕の気持ちを理解してくれたようで少し考えてから
「ついて来い」
とってくれた。

「ここだ」

トラさんに連れられ着いたところは一件の家だった。
木々に囲まれた白くこじんまりした家。
縁側があってお昼寝をしたら気持ちが良いだろうな。

「トラさん。ここは？」
「ここはかなり経つがピアニストが住んでいた家だ。今は誰も住んでいない」
「ピアニストが？」
「ピアニストだけじゃない。音楽でプロになったさまざまな人が住んでいた家なんだ」
「えっ!じゃあ・・・」
「お前のご主人も音楽の道を目指してるんだろ?少し中を見てくるといい」
「うん!!ありがとうトラさん!!」

家の中は誰も住んでいない割に綺麗で、真ん中にステージがある。

ここで歌を歌ったらとても楽しいだろうな。

皆で楽しめば絆も今よりももっと深くなるだろう。

どうにかご主人様を連れてこなきゃ。

「クロー。クロー。どこにいるのー？」

今日、皆で音合わせをして家に帰るとクロが居なかった。
いつもは私の帰りを待っていてくれるのに。
最初は散歩に行っているだけだろうと思っていたけど、もうあたりは真っ暗だ。
心配になった私はクロを探しに出かけた。

真っ黒な風景と同化した真っ黒な猫が目の前を通り過ぎた。

「クロ!! ここにいたのね!!」

クロは私の声に振り向いたがまた走って行ってしまった。

「あっ 待ってよ!クロ!!」

クロの後を追って行くと目の前に白い建物が現れた。

「…家？」

周りの闇の中でぼんやり光って見えたその家に、
私は知らず知らずのうちに引き寄せられて行った。

「お母さんー 早く新しい曲を聞いてよー」

「ちょっと待っててー」

木洩れ日の入る縁側でお昼寝をしていた僕は、二人の声で目が覚めた。
目に映るのは二人の笑顔。

あの後、ご主人様はママさん、パパさんと話し、相談して自分の夢について話した。

最初は反対していたママさんだけど、いつも無口なパパさんの一言で渋々賛成した。

「お前の見つけた夢だ。反対するつもりはない。だが、条件がある。」

「…条件？」

「その家にはステージがあるんだろ？だったらそのステージの上で歌を歌ってほしい」

「歌を？」

「ああ、引っ越した次の日でもいい。歌を歌ってほしい」

「…お父さん」

「お前の本気が知りたいんだ。」

「…わかった。私、歌うよ」

「そうか。」

パパさんは少し笑って自分の部屋に入っていった。

そして、僕たちはあの家に引っ越した。

引越しの片付けを終え、ご主人様は歌った。

今までの 練習の成果を、思いを、全てを、
ご主人様は出し切った。

ご主人様が歌い終わった後、ママさんはポツリと

「また、皆で暖かく暮らせるね」

と呟いていた。

それから、僕たちの生活は
毎日が明るくて、楽しくて、仲良く暮らしている。

ご主人様はステージの上で歌って
ママさんとパパさんはそれを聞いて。

前以上に皆の絆が深まったと思う。

「にゃ〜…」

淡い光に当たっていたらまた眠くなってきた。

僕は遠のく意識の中で想ったんだ。

空間って

全てが繋がっていて切り離せないもの

そこにいたいと感じるもの

だから個人とみんなの空間も、家族も繋がっているんだ。

「あれ、クロ。寝ちゃたの？せっかく私が歌ったのに…」

「ねえ、クロ。 …ありがとう」